意欲的な文学活動を

三川支部　文学愛好者集会から

三川支部では低調にある三鉱文化活動に推入れる意味で、北村教宣部員以下二十名余が初秋の一夕を一堂に集つて文化—とくに文学の面を中心に活発な討論を行い、明日の文化運動に対する一つの手がかりを得ようと試みた。以下その要約である。

かねてからの懸案であつたこの集会が、十数名の愛好者と、助言者として特に岩本宗二郎氏と加藤説夫氏を招いて、活発な討論の場となつたことは、初めての試みのこととて、提起された問題を徹底的に掘り下げ得なかつたうらみはあるにしても、有意義な催しであつたといえよう。

討論に先だつての報告にもあつたように、「炭鉱地帯」が休刊になつて以来、愛好者の多い三川支部で、活発な文学活動が芽生えなかつたことについては、心ある人々から指摘され続けて来たわけで、そのことだけで考えれば活動者のひとりとして、その欠陥を発展的に克服できなかつたのは、なんとしても残念なことであつたと思つている。

しかし、その問題については、こんご機運が高まつて行くなかで仲間たちと共に充分話し合い、じつくり取組んで行くべきであろう。

集会での報告と討論のなかから、現在の大牟田、とりわけ三池における文学活動の状況と、私たちが取組まねばならぬ当面の課題について、その二、三をとりあげておきたい。

三池では「炭鉱地帯」のあと、連続をもつた活動が見られず、わずかに三作支部で「三作文学」が出され、短詩文芸の方では短歌、俳句のグループが堅実に実作と取組んでいる。大牟田の全市的な動きとしては、新日本文学会の支部が中心となつて、「三池文学」を出し十七号を数えている。ほかに現代芸術研究グループとして「火の会」があつたが、いまはない。

これらの事情をながめても判るように、いま三池における職場の文学活動は三作を除いてかりにも活発であるとはいえない。このような状況が〝みいけ〟あるいは〝月刊炭労〟への不協力となつているしかし一方、最近の新年文芸、夏期文芸では愛好者の巾が広くなつたのを裏付けているように思われる。こう考えてくると、職場を基盤とした多くの愛好者、作家グループとの交流、周辺の文学グループとの交流をどう進めて行くかが一つの課題になる。さらにそれを結果して、教宣部、編集部とも緊密な連繋をとりサークル活動として実を結ぶよう、ここでも考えなければならない課題がある。

また交流ということで思い当るのは、美術、演劇グループとの交流である。最近のこのグループの人々の動きは目ざましいものがあるから、芸術、そして創造という問題を考える場合、とも研究して行くことは、現代芸術を理論的に理解して行く上で大きな収獲があろう。これらの問題は、討論の中でも切実な要望として出てきたことでもある。

このようなことがらは、現状把握と活動のスタイルについての問題であるが、当面私たちがもつとも真剣に考えねばならないのは、炭鉱労働者として、あるいは現代文学の理解者としての態度の問題とその作品活動をどう活発におし進めて行くかということであろう。

討論の中でも、いわゆる文学勉強の不足について批判も受け、反省もしたわけだが、組織人として思想改造、社会革命へのたたかいを裏付けるものとして、文学作品に活々とした人間像を描き、多くの人々に感銘を与える力が私達のうちに蓄えられないうちは、創作者として大きなこともいえないのである。ただでさえ、生活と文学、政治と文学、現代科学と文学という関係において文学、芸術の領域は社会の発展とともに拡大されて行くのであるから、俗つぽい愛身の態度や追従だけでは、ジャーナリズムや文壇的風潮に、おしひがれてしまうだろう。

このことは、職場作家や愛好者グループ、大きくいえば、民主々義文学の弱さでもあるが、これが多くの恨みとなつている以上、私たちは自分の蓄積した力で解決のいと口を見出さなければならないであろう。

討論の中で出された短歌にかかわりのある日本の抒情的風土とその精神的背景の問題も、抒情の否定が、現在の文学を発展させる上でどのような価値を持つかということは、直接私たちの基本的な物の見方である批判態度に繋る問題であるし、積極的な現代の典型を要求する現代芸術の中ではまだまだ大きな位置を占めている問題でもある。

昨年の「太陽の季節」や今年の「挽歌」等の作品についても、これが単に、ドライからエレガントへの移行などといつて私たちには見過せないのである。文学における思想性は、それがたんに人間関係においてでなく、複雑な社会的諸条件とそれを認識する態度が、いかえれば批判精神が、人間関係の追求の上に、多彩に発揮されねばならないのである。

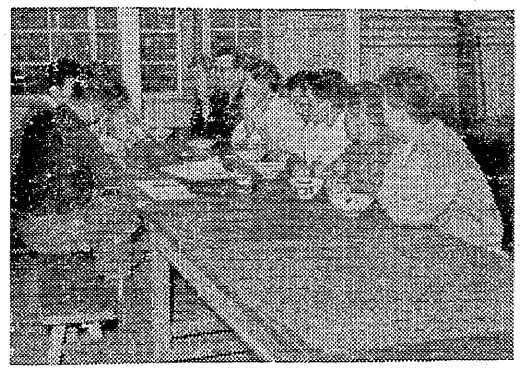
討論の中で、この点を明確にはとらえきれなかつた。しかしグループの人々も同じ次元にあることは廃いのない事実である。それぞれの個性や才能を、こんどのような形で豊かに開花させるかということが、私たち愛好者とグループに課せられた重要な問題である。

私たちは、このような文学上の課題にとり組むと共に、組合の当事者には、こんど協力態勢のことで充分話し合つて行きたいと思う。これは組合の文化運動の進め方という地点で注文も出したい。

ともあれ、話し合いの中では現状を把握した上での新しい発見があるものだ。こんどの討論集会でも貴重な教訓を得た。その収獲を土台に新しい文学のために情熱を燃やそう。

新しい文学は必ずそこに人間にたいする新しい発見を伴うはずであり、その発見は、数奇な意匠からある朝遇然生れ出るような性質のものでは決してないだろう。

（杉本与司朗）



組合で予算化へ

サークル代表と話合い

文化資金の使い道についてさいきんいろいろ論議が交されているが潜炭支部では組合が主体となつて文化資金の使途について予算を組んで行くこととなつた。

従来、この文化資金の予算化については会社の一方的な処理に任されてきているが、さいきんサークル活動の活発化につれて、いままでの文化資金の配分に著しく不合理が発生してきているのでこの弊害を打破しようと図つたもの。潜炭支部には現在体育関係まで含めて約十二のサークルがあり、各種目ごとに漸く活発な運動を行つているが、まず組合がこのサークル代表者たちと直接話合つて苦情や意見を聞き、予算化して行こうということになつた。

患者さんら大喜び

三川楽団　労災病院見舞

三川支部楽団サークルはさる九月二十八日慰安旅行を熊本県日奈久温泉で行つたが、慰安旅行をかねて周辺の九州教職員療養所や八代市の労災病院に出向き音楽や歌を患者さんたちにふんだんに聞かせ病院慰問を行つたが、思わぬ慰問に病院や療養所側では大喜びだつた。

この日日奈久へサークル員二十二名は慰安旅行を行つたものだが、これは同サークルがいままで各地域へ情宣とともに音楽の巡回を何回となく行つており、一応区切りもつきサークル員の慰労のため旅行しようというものになつたのであつた。たまたま地域から贈られた花代などもあり、どうやら一泊できそうな予算も組めたので、では日奈久温泉へ行こうときまつたもの。

ところが日奈久の近くには八代市の労災病院があり、誰いうことなく、ついでだから無聊に苦しんでいる患者の人たちを音楽と歌で慰めてやろうということで、折角の慰安旅行にもかかわらず楽器などを送付して慰問を行うことになつた。どうせ労災病院を慰問するなら、労農提携のため日奈久近郊の農村の人たちへも慰問してやろうということで、事前に村役場などへ手紙で連絡をとつていたが、これは時間の都合などで駄目になり変りに教職員の療養所から是非来てくださいと声がかかつたものである。

駅へつくや迎えに来ていた療養所の人たちに導かれて、直ちに療養所へ赴き、約一時間半にわたつてまず「幸せの歌」からはじまる十数曲を歌手も繰出しての音楽パレードを聞けば、療養中の先生たちも歌を口ずさみながら大喜びで拍手の連続。演奏後はしばし座談を行つて楽しい一刻を過した。

当夜は旅館でも「職場音楽」というところから大歓迎、請わるるまま大広間で演奏を行えば温泉客からこれまたアンコールの連続というところ。

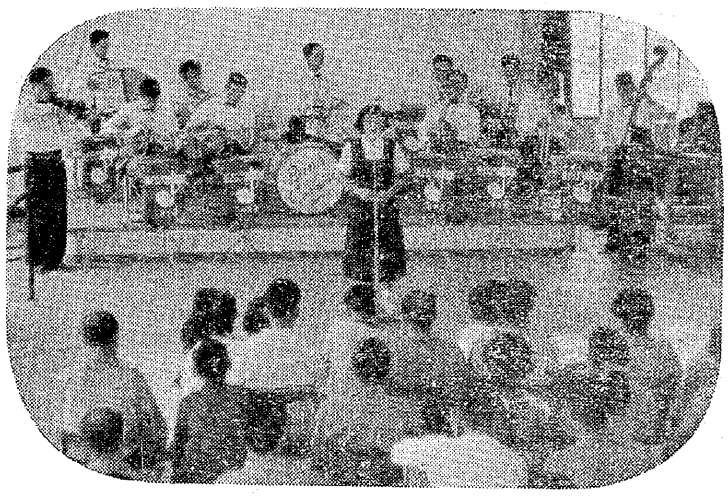
翌二十八日、八代市へ行き労災病院で午後一時から室内遊技場で約二時間余、三十数曲の演奏と歌語を披露した。入院患者で許可のあつた人たちは看護婦さんの手を借り、寝台者まで動員して聞るという盛況ぶり。終つて各病室へと見舞の挨拶へ行けば涙を硫さんばかりに喜ばれた。中でも三池出身の患者さんたちはこの日は鼻高々で元気そのものだつた。

木原医事課長（病院長代理）

思わぬ歓迎を受けて嬉しくて堪らない。この前も三鉱の組合からは映画が来て皆大喜びでしたできますなら度々来ていただけたらと思つています。病院の方も予算を組んで便宜を図りたいと考えております。

と感謝していた。

帰路にはわざわざ病院のバスを提供して雨の中を市中見物させ、駅頭へ見送りに来る熱の入れようだつた。



労災病院での楽しい演奏

秋の西独から近況

冬仕度の西独から近況

天高く馬肥ゆるの秋！西独でたゆみなく頑張つている貝田、川崎、本田の三氏より近況を知らせたレターが編集部へおくられてきた。既に冬仕度に余念がないとやら、以下その近況つづいています。日本でも相当の被害があつたのでしようが、アジアより流感が入り今が最盛期です。私達が働いているルール地方の鉱山労働者だけでも七万人の患者を出し、私達の仲間も三十人に及ぶ半数の患者を出しています。しかしご安心下さい。私達三人は健康です。大牟田の汚れた空気の中で育つたのですから、ヴイルス菌なんて何事もないのでしよう。私達も異常なほど神経を使い過患しないようしています。

十五日間の旅行

南下し、ローマに行きナポリまで足をのばしソレント・カプリ島で過し、帰りはグロセツトを通りルネツサンスの発祥地フローレンツに行き、ピサの斜塔を見物しモナコにてモンテカルロの一夜を過しフランスのゲノーベルに行き遠くピレネ山脈を眺めて、スイスのヂユネーブ、チユーリツヒを経て帰る十五日間の走行距離五千五百粁におよぶ見て歩きをやる予定です多くの写真をお土産にして見て歩記でも書いてお便り致します。

つぎに、炭労が西独派遣反対をし皆様方にも何かとご心配かけたことと思いますが、こんど炭労を主体とする実情調査交渉団の方が来独され、交渉の結果炭労要求が通り、おそらく来春早々派遣の運びになるのではないかと思つています。私達も早く第二陣の方がこられるのを待つています。だが要求が百％通つても当地の労働協約、就業規則などは三池に較べると規則的にやかましく小さなことなど何かと問題があると思うが、私達が歩いてきた二の舞を演じないだけ二陣の方は有利と思います。甘い考えでなくしつかりフンドシの紐を締めてこられますよう具体的に話が進んだらまた何かとお知らせ致しましよう。

静かな総選挙

つぎにご存知と思いますが、西独の総選挙が行われたのです。私も興味深く一カ月の選挙運動の経過を見たのですが、あまりにも日本と違つた風景に驚いています。私達が参政権がないためでしようけど、内容は分らないけど表面は静かな秩序ある風景でした。投票後のポスターなどの後始末など大いに日本は見習うべきでしよう。それに組織を挙げての候補者などなく鉱夫の関心のないのも私達の場合と対照すると奇異を感じさせました。

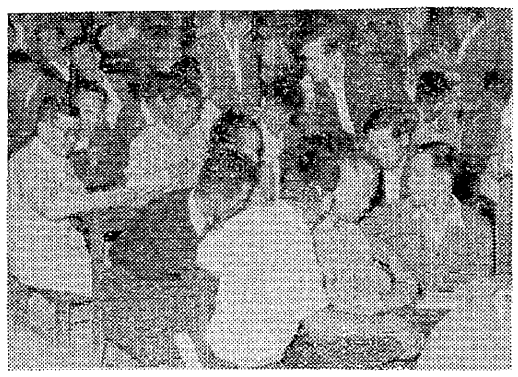
保安には十分ご留意の上ご精励下さいますようお祈り致します。ご安全に、グリユツクアウフ

九月二十四日　三池三人組

三池の皆様方へ

楽しい外国旅行

冬仕度の西独から近況



結成へ協議会　区別分会

開催　五日午後三時から労働会館で中央地域分会長会議を開催した。この中席で、こんど校区別の連絡協議会をつくるということで各校区別に別れて、その結成の日程の打合せを行つた。

これによりこんどは校区別の結成が続々行われることになる。

「うすい」を発刊

本所の臼井分会で

先頭から機関紙の発行を考えていた臼井地域分会では、こんどそれが実現して第一号を二十五日発行した。紙名は応募者五一名、四六件の中から決められたもので、こんど毎月一回二十五日に発行される。発刊に当りいままでの自己反省の中からこんど機関紙を通じて話し合い、意見を出し合つて機関紙を育てると同時に、闘える組織をきづかねばならない。そのためには地域分会の性格と任務をはつきりつかむことが大切であることが主張されている。その他各部の活動計画、詩、短歌、俳句、随筆などの内容になつている。

本所支部としては誰一の機関紙であり今後の活動が期待される。

（本所発）

奮つて参加を

荒地評ソフトボール

昨年初めて試みられた荒地評ソフトボール大会は、あいにく雨天にたたられたり、各単産の行事と重復したり余り芳しい成果ではなかつた。

本年も左の要領で第二回を行うことを決定、スポーツを通じて各単産の交流を深めることとなつたが今度はぜひとも成功させたいと地評では力こぶを入れており、各単産チームの参加が広く望まれている。

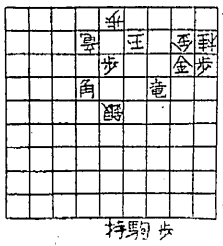
日時　十月二十七日午前九時

場所　四山グラウンド

編成　男女各一チーム

申込締切　十月十九日事務局宛

詰将棋



【ヒント】6二の竜に気をとられると駄目。竜も角も捨てて詰み十七手詰。